

はじめにお読みください！

危険予測学習とは

危険予測学習とは？

学習者が、教材である絵や写真などに潜んでいる危険を予想し指摘しあうことで、現実生活の危険に気づき、危険に遭遇しないためにはどのように行動するのかを考え、自ら安全な行動がとれるよう安全意識を高めることを目的とする学習活動です。危険予知訓練とも呼ばれています。

「危険予測学習」は、学校安全の3領域である「防犯を含む生活安全・交通安全・災害安全」すべてでの活用意義が認められています。

どのような教材を使うの？

以下のような、絵(イラスト)や写真を使い、現実には起こりえる事故場面を想定し学習します。

絵は、内閣府「交通安全総合ネットワーク『Cross Road』」等を活用したり、写真は、近隣の危険箇所などを撮影し教材とします。

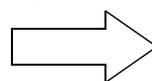


どのような効果が期待されるの？

交通安全教育においても、子どもたち自身が主体的な学習によって、危険に気づき、自ら安全意識を高めていくことが期待されています。

この点で、自分で考え、グループで話し合い、望ましい行動を自ら選択決定する「危険予測学習」ほどふさわしい活動はありません。

「危険予測学習」に取り組む過程で、交通ルールの理解や遵守、横断歩道や踏切の渡り方、幼児や高齢者等への安全配慮、自転車の安全運転の徹底等について、子どもたちの十分な実践力を育ててください。



2～3頁 参照

学校での取組は

本教材集は、どのように活用すればいいの？

子どもたちの交通安全意識を高め、様々な交通場面における危険予測・回避能力を育むためには、計画的な交通安全教育に取り組むことが必要です。

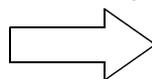
このため、学期に一度以上、様々な機会を捉えて本教材集を活用するなどして「危険予測学習」に取り組むことが望まれます。

短い学習時間で取り組むことはできるの？

短い学習時間で取り組むことができるよう、本教材集の指導案は、起承転結で展開する「4ラウンド法」を採用しています。

学級活動（ロングホームルーム）はもちろん、朝の会などでも取り組むことができます。一教材を数度に分けて実施することも可能です。

なお、本教材を活用するに当たっては、学習時間に合わせ、質問を工夫したり、子どもたちの活動を工夫したりしてください。



1～2頁 参照

どのような教材が掲載されているの？

典型的な事故事案をもとに、以下の教材を掲載しています。

教材	事 例	頁
	信号機のある交差点の危険	8
	踏切横断の危険	10
	停車中の車両間の横断の危険	12
	右側通行の危険	14
	一時停止線無視の危険（坂道走行の危険）	16
	無灯火運転の危険	18
	歩道走行の危険	20
	停車車両の追い越しの危険	22
	減速した車両の左側を追い抜く危険	24
	グループ走行の危険	26

本教材集は、「踏切横断の危険」以外は、内閣府・政策統括官付交通安全対策担当が管理・運営するWeb頁「交通安全総合ネットワーク『Cross Road』」に掲載されている絵を活用しています。

幼稚園の学習教材として、「ひらくとわかる！こうつうルール」（財団法人日本交通安全教育普及協会発行）があります。